



毎日が防災教育・安全点検日

～大袈裟くらいでも、まだ足りない～

巨理町立荒浜中学校長 稲田 壽

勤務歴

昭和60～ 宮城県立船岡養護学校（現支援学校）
平成 2～ 岩沼市立岩沼北中学校
平成11～ 七ヶ浜町教育委員会派遣社会教育主事
平成14～ 岩沼市立岩沼西中学校

平成17～ 宮城県蔵王自然の家社会教育主事
平成20～ 栗原市立若柳中学校
平成23～ 宮城県蔵王自然の家次長社教主事
平成26～ 加美町立宮崎中学校
平成29～ 巨理町立荒浜中学校

1 はじめに（思えば遠くに来たもんだ）

私は愛媛県出身です。

高校3年生の時、「青葉城恋唄」が大ヒットしました。そのことが理由で、宮城県の大学に進学し、そのままご縁があり採用になり34年が経過しました。

人の「縁」とは不思議なもので、おかげさまで私のような者でも社会教育主事として3度の勤務をさせていただきました。そこでの出会いが、私に「宮城県の教員として働く魅力」を教えてくださいました。

2 試行錯誤の20～30代

新採当時、「保健体育教諭として授業と部活動指導をバリバリ頑張りたい。」そんな気持ちが強かったことを思い出します。当時、宮城インターハイを控えて、県内の教員は熱く燃えており、私も新任ながらその一人でした。

私の新任としての勤務校は、宮城県立船岡養護学校（肢体不自由）です。身体にハンデのある方の体育指導について学びました。その経験は、その後の教員生活で貴重なものとなりました。養護学校は素晴らしい学校でした。目がきれいな子供たち、心にけがれない子供たち、全幅の信頼をよせる子供と保護者、必死に生徒と向き合う諸先輩。そんな環境が私を育ててくれました。

本当の支援とは・・・、そんな事を考えるきっかけをいただいた5年間で、それは現在も宝物だと強く思います。

3 実践の40代

38歳の時、東北大学社会教育主事講習を受講させていただきました。その後、七ヶ浜町教育委員会、宮城県蔵王自然の家に社会教育主事として勤務させていただくことになりました。最初は教員ではない職種に戸惑いを

感じて過ごしたことを思い出します。

学校を一步離れ、社会人の方、中高年の方、地域の皆様と学習する機会は実に新鮮で楽しく感じました。

4 自己確立の50代

2度目の宮城県蔵王自然の家勤務で、尊敬してやまない上司との出会いがありました。社会教育（生涯学習）の楽しさと奥深さ、教育者としての気持ちの在り方など、たくさんの学びがあり、それは50代の私にとって正に奇跡の出会いだと感謝の気持ちで一杯です。そこで学んだことは、人として「誠実」であれ、「言うことは言う、されど仲良し」、常に最悪の状態を想定した危機管理、足下は宝物であふれている、地元とともに歩むなど、たくさんのご示唆をいただきました。残念ながら現在の私は、どれも自分のものにできていないように思います。

この年齢になり確かな気づきがあります。「宮城県の教員になってよかった。」ということです。

「孤掌鳴らず」この言葉を教えていただいた先生に一步でも近づきたいと、いまでも学びの連続です。

5 我が愛する 荒浜中学校（その1）

全校生徒78人 教職員 16人 被災最前線
校舎内外に咲き誇る花 日本一
素敵な笑顔 世界一を目指し努力中



総合的な学習の時間に取り組んでいる「荒中えんころ」
みちのくyosakoiまつりにも出場しました。

5 我が愛する 荒浜中学校（その2）

荒浜中学校は津波による甚大な被害を受けました。YouTubeにも、当時の動画がアップされています。

不幸中の幸いで、海まですぐ近くの距離に校舎はありながら、誰一人として生徒・職員で犠牲になる者はいませんでした。しかし、生徒の身内や知人にお亡くなりになった方はたくさんおり、そのことから生徒の心のケアは現在も継続的に行われています。

「若い先生に聞いてほしい荒中の自慢話」その①

本校の朝の会の時間帯は、職員室には事務の先生しかいない!!!

本校では、担任だけが教室に行くのではなく、全教職員が教室・学年のフロアーに行きます。

生徒の心身の健康の様子をみんなで確認するためです。朝の会のみならず、給食の時間も同様です。今年度、新任教諭二人が勤務しており、その一人が副担任です。副担任の先生は、朝の会、給食、帰りの会、学活、道徳の時間に所属学年の教室に自ら入り、毎日学んでいます。自主的にこのような取り組みができる、この先生の将来が楽しみです。

「若い先生に聞いてほしい荒中の自慢話」その②

本校は四季折々の花が咲いています。校内では四方どこを見ても、きれいな花が咲き誇っています。保護者や地域、教職員が「花咲く荒中」をいつの間にか作りあげてくれました。現在は校外にその活動を緑化委員会が拡大しています。花は無言で私たちに「あなたたちもきれいに咲きなさい」とメッセージを送ってくれているように見えます。

「若い先生に聞いてほしい荒中の自慢話」その③

本校の校舎は津波の被害のため、新校舎を建設していただきました。トイレの照明は全自動、洗面所の水道も自動です。エレベーターがあり、廊下が広く、地区の方が避難できるよう外付け階段で屋上に上がることができます。「誰のため」「なぜ」と疑問を持つはず。そうです、ここは中学校として学ぶ場であるだけではなく、有事の際には避難所として多くの方が生き延びる場だからです。高齢の方、身体にハンディキャップのある方、誰でも使い易いように設計されています。地域の皆様にも、気軽に学校訪問していただきたいと考えています。



「わたりサンフラワープロジェクト」

生徒が育てたひまわりを、地域の方へ届けました。今年度も準備中です。荒浜の地をひまわりで一杯にしたいです。

6 むすびに

教員という職業は実に素晴らしい職業です。毎日がドラマチックです。正直なところ教員生活の半分は楽しい思い出、半分は辛い思い出のように思います。それでも教員はやりがいのある職業です。

私のいまの仕事は、毎日何度も校地内外を見回ること、非常用備品の点検、エレベーターの点検、期限切れの掲示物などないか、生徒と教職員の健康観察などです。月1回の点検でもいいこともあります。私は毎日が安全点検日だと思っています。震災はいま起こるかもしれないからです。

「ミネルバの鼻は、たそがれ時に飛び立つ」。時々、職員会議や朝の打合せで話します。ベテランには歯が立たない経験からくる知識や勘があり、若者にはベテランが失いつつある若々しさや力強さ、時に無鉄砲さがあります。

現場で教員をしている者として、元気でフットワークのいい多くの教員が育ってほしいと強く願います。

「そこのやる気にあふれている君、君を宮城県の児童・生徒は待っている。ぜひ、宮城県の教員になろう。」

愛媛県人である私は、最近こんなことを考えるようになりました。愛媛県人の誇りを大切にしながらも、宮城県の教員であることの満足感で満たされています。そろそろ、自分が宮城県人であることを認めようかと思いません。これも、宮城県の教員となり、多くの皆様に支えていただいたからだと心から思うのです。

「孤掌鳴らず」「片手は自分のために、もう一方は誰かのために」「私たちが生きている今日は、亡くなった方が生きたかった今日である」「危機管理」「説明責任」とう、人としてどう生きるかを教えていただいた宮城県の恩師に感謝の気持ちで一杯です。

来春、また新採の教員の皆様が県内で、我が校で勤務することを心から楽しみにしております。



1985年から現在まで、32年連続で開催している「街道を歩く会」今年度は丸森町から歩きます。



「潮の香とカモメの飛ぶ荒浜中学校」新校舎全景



平成 26 年 8 月 18 日 震災後 2 年 6 か月で新校舎再建

荒浜中学校新校舎の特徴

- 1階部は吹き抜けで、有事（津波）の際には波がそのまま通過する構造になっている。
- トイレの照明は自動点灯し、手洗い用の水道も自動で水が出るようになっている。（身障者対応のため）
- トイレには、赤ちゃんのオムツ交換用の簡易ベッドがある。
- 外付け階段が2基あり、地域の皆様が校舎に入らなくても屋上に避難できるようになっている。
- 屋上には、救助用のヘリポートがある。
- エレベーターがある。

